

# ひかりのこ

6月園便り

聖ミカエル幼稚園

2012年5月25日発行

## 月主題：やってみようかな

5月の家庭訪問では担任とたくさんのお話ができたでしょうか。ご家庭と幼稚園は車の両輪のようにお互いが協力し合い、バランスを取ってお子さんの成長を見守っていきたいものです。何かご相談がありましたら、いつでもどの先生にでも構いませんのでどうぞお話しください。

さて、これからの園便りでは私の経験も絡めながら、子育てについていろいろな話をしていこうと思っています。何かのご参考になれば幸いです。

私は前にもお話した通り、今年の3月まで中学校で3年生を教えており、受験指導、進路指導、学級指導で中学生にいろいろな話をしてきました。生徒たちは3月15日に卒業し巣立っていったのですが、23日の終業式には私や他の離任する先生たちのために200人近く集まってくれ、私たちのためにお別れ会を開いてくれました。そこで森山直太郎の『さくら』を大合唱してくれたものですから、「泣くまい!!」と心に決めていた私も涙が止まりませんでした。誰かのために心を込めて何かができる生徒、よくそこんなに立派に育てくれたものだ、と感動したものです。その生徒たちを前に私は次のようなお話をしました。「みんな、先生の願いはね、みんな全員が幸せに生活してほしい。そのための秘訣はただ一つ。人を大切にしなさい。友達を、仲間を、家族を、恋人を大切にしなさい。お金でも物でもない。人を大切に、人に大切にされるのが一番幸せなんだよ。」

幼稚園は子どもたちが初めて足を踏み入れる小さな社会です。この先には小学校、中学校、高校…とだんだんと大きな社会が子どもたちを待ち受けています。この時期に子どもたちは次の社会に入っていくための力をつけていなくてはなりません。それは「人とかかわる力」です。

ミカエルではたくさん自由遊びをします。お砂場で遊んだり木に登ったり、虫探しをしたりサッカー、ブランコ、スクーター…。お友達と思いきり遊びます。時にはケンカがおきて、誰かが仲裁に入って、ごめんねをしたり。年上の子が年下の子を大切に、年下の子は年上の子をあこがれの目で見つめている。家庭ではなかなかできない、自由な遊びの中だからこそできる貴重な経験です。この時期のこの経験が、将来大きな社会に出ていくための

土台を作っているのです。そう考えると幼稚園の役割は本当に大きなものだと、背筋がピンと伸びてきます。

6月に入って、子どもたちの人間関係はどんどん広がっています。お互いにいろいろなことを学びあっています。たくさん遊んで、たくさんお話を、お友達や家族や周りの人たちを大切に、大切にされる人間に成長してほしい、と心から願っております。

園長 渡部 良子

## キリスト教保育

山下久美子さんのヒット曲、「こっちをお向きよソフィア」の2番の歌詞の中に、“見えないものを信じたら、向こう側へと抜けるカギが見えるわ、いつも隣にいるよだれか、おんなじ輝く瞳でOoo oh”（作詞は康珍化さん、作曲は大沢誉志幸さん）という内容があります。“見えないものを信じたら、向こう側へと抜けるカギが見える”本当にすてきな言葉です。見える物しか信じない物質主義の社会の中で、見えないものを信じることは勇気の要ることです。しかし、不思議なことに、自分で確認して確かだと思っただけで決めたはずなのに、その確かなものに囲まれている中で人は不安を感じます。本当におかしい話です。確かだと思われるものの中に囲まれているのに、不安を感じるとき、見えるものの奪い取りで疲れてしまったとき、見えるものに振り回され行き詰ったとき、思い出す必要があります。“見えないものを信じたら、向こう側へと抜けるカギが見えるわ、いつも隣にいるよだれか、おんなじ輝く瞳でOoo oh”ミカエル幼稚園では、“見えないものを信じ、向こう側へと抜けるカギを見つける”知恵が学べます。“いつも隣にいるよだれか、おんなじ輝く瞳で見守ってくださること”に気づく知恵が学べます。これがまさにキリスト教保育です。『恐れるな、わたしはあなたを贖う。恐れるな、わたしはあなたと共にいる。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。』（聖書の御言葉から）。

チャブレン 司祭 ジョシュア 李 香男